

核使用の危険に警鐘

国連総会第1委保有国に廃絶促す

【ワシントン＝島田峰一】

ニヨーヨークの国連本部で開かれている第77回国連総会は、分野別の委員会の議論に移り、軍縮・国際安全保障問題を扱う第1委員会では3日、一般討論が始まりました。初日は主に地域グループの代表が発言。核兵器使用の危険に警鐘を鳴らし、核保有国に廃絶を求めるおもひだ。

▼関連7面

東南アジア諸国連合(ASEAN)を代表したタイは「世界の平和と安全保障の枠組みが、大国間の高まる緊張、核弾頭の近代化、軍拡競争の激化、世界のさまざまな地域で続く紛争の圧力にさらされ続けていく」と指摘しました。ASEANは核兵器使用の悲惨な結果を懸念しているとして、「核兵器の全面廃絶こそが核兵器の使用や威嚇を防ぐ唯一の保証だ」と述べました。

またすべての核保有国に対し、核不拡散条約(NPT)の義務を遂行し、期限を設けた具体的な核軍縮を取り組むよう求めまし

国連事務総長の発言を全文的に抜粋する」と述べました。

「われらは核兵器廃止条約の発効と第一回締約国会議を歓迎し、「カリコム」が禁止条約を支持するのは核兵器の使用や威嚇が国連憲章や国際人道法に違反し、人道に対する罪であるという確固とした信念を持っているからだ」と述べました。

非同盟諸国を代表したインドネシアは、過去のNPT再検討会議が合意したあらゆる約束の実施を要求。「核保有国がNPTに基づく軍縮義務を遂行する緊急の必要性を強調する」と語りました。

「核兵器使用の威嚇が明確であることは暗黙のうちに行われ残すことができる最大の贈り物だ」というタマレス

た。カリブ共同体(カリコム)を代表したバハマは、「核兵器は安全を保障しない。核兵器の廃絶は私たちが将来世代に残すことができる最大の贈り物だ」というタマレス

10/5
3.32

核先制不使用の約束を

国連総会 保有国に中満氏訴え

【ワシントン＝島田峰隆】国連の中満泉軍縮担当上級代表（事務次長）は20日、「いま核兵器の使用が受け入れがたいほどに起つたりする範囲内にある」と懸念を表明し、「人類を絶滅から救う即時の措置として核兵器の先制不使用を約束すれば」と、すべての核保有国に「緊急に訴える」と述べました。

【ワシントン＝島田峰隆】国連の中満泉軍縮担当上級代表（事務次長）は20日、「いま核兵器の使用が受け入れがたいほどに起つたりする範囲内にある」と懸念を表明し、「人類を絶滅から救う即時の措

の深刻な事態は、核兵器への依存の深まり、透明性や対話の欠如、核兵器予算の増加、使用の威嚇など「この間の問題のある傾向の直近の表れにすぎない」と核保有国を批判しました。

8月の核不拡散条約（N.P.T）再検討会議に關して、最終文書を

採択できなかったものの文書案には過去の核軍縮合意の有効性など有益な内容が含まれていると強調。すべての国に文書案の中身の実践を呼び掛けました。中満氏は「核兵器のない世界に向けた努力では悪いニュースばかりではない」とし、「核兵器禁止条約第一回締

約国会議が成功を収め、眞面目行動計画を採択したことなどを温かく歓迎する」と述べました。

国連総会第一委員会（軍縮・国際安全保障問題）の一般討論で発言しました。

中満氏は、核兵器使用を感嘆するロシアの名指しは避けつつ、ウクライナでの戦争で「核兵器の現実的な危険」が再び世界の焦点になつたと指摘。いま